

色の嗜好の傾向性と衣服の選択との関連について (第1報)
文化女子大家政 盛田真千子

目的 嗜好色に関する研究報告は数多くなされているが、ここでは、物の選択が、日常生活の中で、どのように色の嗜好と関連し、色の嗜好に左右されているのか、さらに色がなぜ好まれたり、嫌われたりするののかという嗜好の傾向性について考察したい。色の嗜好と物の選択との関連については、衣服を中心に、春夏と秋冬の2つの季節にわけて考えた。今回の報告は春夏の衣服の購入など、購買意欲の強い、18、19才の女子学生とその母親もしくは母親の年齢にあたる35才～55才を対象に調査し、考察した。

方法 アンケートによる調査で、129種の色紙一覧表を調査に用い、回答してもらった。調査期日：1982年7月1日～10日。対象者：本大学1年生286名、35才～55才の女性217名。調査項目：好きな色、好きな色との配色はどの色か、嫌いな色、3ヶ月以内に購入した衣服の色、特に気に入って着用する衣服の色、それぞれ2色づつ選択させた。衣服の色については、服種別、用途、柄、無地の別、素材、金額、重視した購入ポイント、気に入って着用する理由、なども記入してもらい、色との関連を見た。

結果 好きな色3位：学生①lt16(9.2%)②W(8.0%)③lt24(6.9%)、母親①W(6.22%)②lt16(4.15%)③V2(3.92%)。嫌いな色2位：学生①dk8(2.76%)②V22(6.6%)、母親①V22(6.45%)②V2(4.8%)。3ヶ月以内に購入した衣服の好きな色3位：学生①W(22.20%)②V2(4.72%)③PI8(4.02%)、母親①W(13.36%)②dp18(5.99%)③BK(4.84%)。学生、母親共に白の%が大変高かった。特に気に入って着用する色3位：学生①W(27.45%)②V2(4.55%)③dp18(4.02%)、母親①W(18.20%)②dp18(2.83%)③lt8(3.9%)。やはり白が大変好まれた。衣服と嗜好色との関連は、服種、用途、金額、と深くかかわりが見られた。